

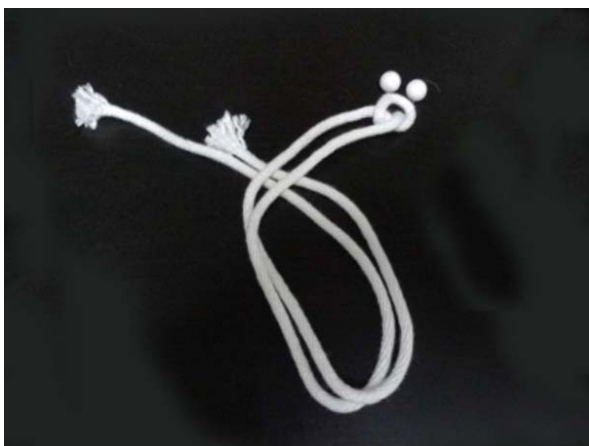
## 気持ちを届ける被災地支援 「むすびめくん ユーモア・メッセージ リレープロジェクト」がスタート

東京工芸大学(学長:若尾真一郎、所在地:東京都中野区/神奈川県厚木市)芸術学部デザイン学科ビジュアルコミュニケーションコース准教授の笠尾敦司は、東日本大震災の被災地支援として、オリジナルキャラクターを使って人の気持ちを届ける「むすびめくん ユーモア・メッセージ リレープロジェクト」を実施しています。

笠尾は、「避難所で優先的に必要とされているものは食料や衣類だが、次に必要とされるのは、人の気持ちを届けるメッセージではないだろうか」との考えから、このプロジェクトを開始しました。

プロジェクトは、支援地となる東京で多くの人に「むすびめくん」というオリジナルキャラクターを作ってもらい、応援メッセージを添えるところから始まりました。その作品を避難所に展示し、展示を見ていただいた避難所でも同様に作品を作っていました。それらを都心に持ち帰り展示する、というメッセージのリレーを繰り返し、被災地と支援地の気持ちを結びコミュニケーションを発生させることで、大惨事を忘れず長期的な支援に繋げることを目的としています。

「むすびめくん」は洗濯用のロープから生まれた付喪神(つくもがみ)、という設定のキャラクターです。基本形となる顔と目の付いたロープを結ぶことで自由な形をつくることができます。ユーモラスなむすびめくんがメッセージを運ぶことで、より気持が伝わり、コミュニケーションを誘発させやすくなります。



基本形むすびめくん



ロープをひねったり、結んだり、目を書き入れることで様々なむすびめくんをつくることができます。

第1回の活動として、5月7日に宮城県登米市登米公民館で、5月8日に福島県南相馬小学校で展示を実施し、被災地の方々にむすびめくんのユーモアを楽しみつつメッセージを受け止めていただきました。ペットを失った方がそのペットを模したむすびめくんを作ることでなぐさめられたり、手を動かして何かを作ることで自分が楽しい、などの癒しの効果もありました。

今後は都心での展示と、メッセージに加えて義援金の募集、および継続的な活動の実施を計画しています。



避難所での展示の様子



むすびめくんの制作とメッセージの記入をしていただきました。



看護師の方が作ったむすびめくん。「原発問題で避難生活を送っています。被災者として、ボランティアの方々の優しさ、そしてご苦勞が心にしみました。感謝の気持ちでいっぱいです」とのメッセージ。



ペットと生き別れた人が多く、その思い出をむすびめくんに託す方も。写真は、こどもが大切にしていたウサギを模したむすびめくん。「はげましの言葉や心使い、本当に感謝します。(ありがとう!）」とのメッセージ



支援地で作られたむすびめくん。「宮城出身なので、今、何もできなくて悔しい想いでいます。でも、早く前のいや今まで以上に良い宮城、東北になることを信じています。早く社会人になって東北の復興のために働きたいです。」とのメッセージ。

**【本リリースに関するお問合せ先】**

東京工芸大学 学事部広報課

担当：林、佐藤

電話：046-242-9600 / FAX046-242-9638

e-mail：kikaku@office.t-kougei.ac.jp